

(注) 本報は、主に現地紙における報道を当館限りで日本語でまとめたものです。記事の中の客観事実は日本政府や現地政府の公式見解と異なる場合がありますが、当館では文責は負いかねますのでご了承ください。

ベナン月報（2024年4月）

【内政】

- 9日、タロン大統領は、大統領府にて国家再生党 (RN) 及びベナン解放精鋭運動 (MOELE-Bénin) 党首と意見交換を行った。(11日、La Nation 紙他)
- 政府は、トウモロコシの市場価格高騰に対し、市場価格抑制に向け補助金支給を決定。(12日各紙)

【外政】

- 2日、アジャディ・バカリ外務大臣はラブロフ露外相と電話会談を行い、安全保障に係る意見交換を行った。(3日、Le Matinal 紙及び Le Matin Libre 紙)
- 26日、ミシェル欧州理事会議長はタロン大統領と会談を行い、対テロ対策で4,700万ユーロの支援を行う旨表明。(29日各紙)

【治安】

- 27日、コトヌ市内において、物価高に抗議する労働組合4団体によるデモ隊と治安部隊が衝突。治安部隊はデモ隊を強制散会させ、29名を逮捕。(29日、Le Matinal 紙他)

【経済】

- 19日、ベナン政府はコミュニケを通じ、スタンダード・アンド・プアーズの格付けがB+ (ポジティブ) からBB- (安定的) に上がった旨発表。(23日、Le Matinal 紙他)
- 25日、第2回ベナン・中国投資会議が行われ、アスマン産業・商業大臣及びベナン駐ベナン中国大使が出席。(26日各紙)

【文化・その他】

- 3月27日及び30日、在ベナン日本国大使館は、令和5年度在外公館文化事業一環として映画上映会を開催。(4日、L' Economiste 紙他)

※下記内容は、La Nation 紙、Le Matinal 紙、L' Evénement Précis 紙、L' Economiste 紙および Le Matin Libre 紙の記事を元に記載したものです。

【内政】

- 9日、タロン大統領は、大統領府にて国家再生党 (RN) 及びベナン解放精鋭運動 (MOELE-Bénin) 党首と会談し、政策及び2026年の一連の選挙に係る意見交換を行った。(11日、La Nation 紙及び Le Matinal 紙、12日、L' Evénement Précis 紙)

- ・ トウモロコシの市場価格が175～200CFAFから400CFAFまで高騰したことに對して、政府は市場価格抑制に向け補助金支給を決定。（12日各紙）
- ・ 16日、ヌアティン大統領付国防担当副大臣及びバギディ国軍参謀総長の出席の下、ウンパタン・ベナン海軍司令官の就任式が執り行われた。（18日、Le Matinal 紙及びLe Matin Libre 紙）
- ・ 17日、閣議において、農業政策2024－2025の一環として、肥料の市場価格維持を目的に約240億CFAFの補助金支出が決定。（18日各紙）

【外政】

- ・ 2日、アジャディ・バカリ外務大臣はラブロフ露外相と電話会談を行い、安全保障に係る意見交換を行った。（3日、Le Matinal 紙及びLe Matin Libre 紙）
- ・ 2日、フッセン加国際開発大臣がベナンを訪問し、保健分野に係る協力強化を目的として、ウンパティン保健大臣と意見交換を行った。（3日、La Nation 紙、5日、Le Matin Libre 紙及びL' Evénement Précis 紙）
- ・ 4日、国際青年会議の実施にあたり、国連人口基金（UNFPA）代表はタロン大統領と会談し、同大統領の協力を謝意を表明するとともに、意見交換を実施。（5日各紙）
- ・ ニジェール・ベナン原油パイプライン事業に関し、ニジェールのアガテム油田からベナンのセメ港WAPCOターミナルへ初めての送油が行われた。（25日、La Nation 紙及びL' Economiste 紙）
- ・ 25日、ガーナを兼轄するルワンダ大使と国際労働機関（ILO）代表は、アジャディ・バカリ外務大臣に信任状の写しを捧呈。（26日、La Nation 紙及びLe Matinal 紙）
- ・ 25日から26日にかけてベナンを訪問したミシェル欧州理事会議長は、26日、タロン大統領と会談を行い、対テロ対策で4,700万ユーロの支援を行う旨表明。（29日各紙）

【治安】

- ・ 16日夜、アリボリ（ALIBORI）県マランヴィル（Malanville）地区ガルー（Garou）モンカッサ（Monkassa）において、身元不明の武装集団が税関を襲撃。ベナン当局側に3名の死亡者、1名の重傷者が発生。（18日、La Nation 紙及びLe Matinal 紙）
- ・ 27日、コトヌ市内において、物価高に抗議するデモ隊（労働組合4団体で構成）と治安部隊が衝突。治安部隊はデモ隊に対し催涙弾を発射する等して、強制退散させるとともに、29名を逮捕した。（29日、Le Matinal 紙、L' Evénement Précis 紙及びLe Matin Libre 紙）

【経済】

- ・ 「2024年国連世界幸福度報告」によれば、ベナンはアフリカ地域で22位、全世界では前年と同様で116位だった。（12日、L' Economiste 紙）

- ・ 2023年のカシューナッツ生産量が前年比9%増で20万トンを超え、過去5年連続で生産量を更新。(16日、La Nation紙)
- ・ 19日、政府はコミュニケを通じ、スタンダード・アンド・プアーズの格付けがB+（ポジティブ）からBB-（安定的）に上がった旨発表した。(23日、Le Matinal紙及びL' Economiste紙、24日、L' Evénement Précis紙)
- ・ 25日、第2回ベナン・中国投資会議が行われ、アスマン産業・商業大臣及びペン駐ベナン中国大使が出席。(26日各紙)
- ・ 25日、ケア・インターナショナル・ベナン／トーゴとドスウィ農業・畜産・漁業大臣は、食料安全保障及び栄養改善に係る協力協定に署名。(26日、Le Matinal紙及びLe Matin Libre紙、29日、La Nation紙)

【文化・その他】

- ・ 3月27日及び30日、在ベナン日本国大使館は令和5年度在外公館文化事業の一環として映画上映会を開催し、日本及び日本文化を理解する機会を得た。(4日、L' Economiste紙、5日、L' Evénement Précis紙及びLe Matinal紙)
- ・ 15日、在ベナン日本国大使館は、コミュニケをとおして、2025年度大使館推薦外国人留学生の応募開始を発表した。(18日、L' Economiste紙、19日、L' Evénement Précis紙)
- ・ 17日、世界バスケットボール連盟（F i b a）の世界ランキングによれば、3x3（3人制）バスケットボールにおいて、ベナンはアフリカ地域で2位、世界25位につけた。(19日、Le Matinal紙及びLe Matin Libre紙)
- ・ 19日、中国文化センターは、中国系企業Beijing Wisdom culture and artとアボメ・カラビ大学孔子学院の共催の下、書道展覧会を開催。同展覧会では、ペン駐ベナン中国大使が出席する中、参加者は書道体験をとおして中国書道を学んだ。(23日、La Nation紙)